【校訓】ほがらか　はつらつ　すこやか　　学校通信　第20号　令和5年1月23日

かがやけ！有年っ子

赤穂市立有年（うね）小学校
〒678-1186
赤穂市西有年2853番地
Tel 0791-49-2081
発行者　西村　博子

１・１７を忘れない
～「忘れない」「語り継ぐ」から「備える」へ～

先週１月１７日、阪神淡路大震災から28年目を迎えました。この日は、「ひょうご安全の日」でもあります。本校では、毎年この日を「防災参加日」とし、全校児童と保護者、地域の方との防災学習を実施しています。

今年度も、赤穂防災士の会の金井貴子会長を講師に迎え、地震が起きたときに想定される被害について知り、地震に備えた対策についてご講話いただきました。
実技演習では、「簡易トイレの組み立て」を実際に行いました。
学校にある備蓄倉庫にあるものを実際に組み立て、保護者の方や地域の方も一緒にどのように使うのかを体験的に学びました。
金井会長が「知らないことは何の備えにもならない」と言われたように、「まず知っておく」ことは、いざというときに役立つ知恵となり、生きる術となります。また、金井会長は、「防災は身近な生活の中にある」とも言われ、ルールを守ること、規則正しい生活をすること、手伝いをすること、勉強することなどの大切さを教えてくださいました。
最後に言われた、「誰かを助けられる人になってほしい」という言葉に、防災は命をつなぎ、人をつなぐものだという思いが込められていると感じました。

子ども達の学びをきっかけに、ご家庭でも防災について話したり、備えたりしていただけるとうれしいです。

↑避難所でのトイレの重要性を知りました。

↑↓簡易トイレの組み立てに親子で挑戦

↑積極的に質問する子ども達

※感染症対策を徹底して実施しています。

自分で考えて行動する！～休み時間の避難訓練実施～

１月１９日（木）の昼休みに避難訓練を行いました。
今回の訓練は、「予告なし」の地震・火事を想定した訓練でした。
昼休みなので、子ども達は、教室にいたり、運動場で遊んだり、トイレに行っていたりと、それぞれが別の場所にいる中での訓練でした。
訓練の非常ベルがなると同時に、子ども達は落下物を避け、頭を守り、放送内容に耳を傾けました。
突然の訓練に驚いた児童もいると思いますが、高学年は低学年を誘導し、低学年は高学年をお手本にして、落ち着いて行動することができました。いつもの訓練以上に真剣に取り組んでいました。
阪神淡路大震災の教訓を生かし、ご家庭でも、いざというときの避難方法について考える機会にしてください。

６年生有年中学校体験授業・授業見学

１月１９日（木）に、６年生は有年中学校の体験授業・授業見学に参加しました。
４月からの中学校生活に向けて、中学校がどんな所なのか、どんな勉強をしているのか、どんな先生がいらっしゃるのか･･･と、期待と不安が入り交じる時期だと思います。
中学校の勝谷校長先生が、「中学校の３年間は、なりたい自分を探す３年間です。」と話されました。勉強はもちろん、部活動やさまざまな体験を通して、自分見つけをすることも大事なことです。
体験授業では、理科の「水の分解」に挑戦しました。最初は緊張していた子ども達も、水が気体に分解される様子や火を近づけたときの反応に目を輝かせていました。授業見学では、中学生の授業を参観し、先輩達の学びの姿を見ることができました。
中学校進学に向けて、安心と自信がもてるよう、しっかりと支えていきたいと思います。

←勝谷校長先生

理科担当の井上先生の説明を真剣に聞いて、安全に実験を進めました。

※感染症対策を徹底して実施しています。